

# 観光復興・振興と 地域連携等による交通の確保

昨年は、東北地方において、地震や台風等の自然災害が相次ぎ発生しました。まずはお亡くなりになられた方々、被害に遭われた方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。東北運輸局としても、一日も早い復旧に向けて全力で支援してまいります。

東日本大震災の発生からまもなく9年を迎えますが、関係者の皆様の取組により、被災地の復旧・復興に向けた取組は着実に前進してきております。東北運輸局といたしまして、震災からの復興を最重要任務として、「観光の復興」、「被災地の足の確保」、「造船業の復興」を復興施策の三本柱と位置づけ、関係者と連携し総力をあげて取り組んでまいりました。

岩手県においては、昨年3月には、JR山田線宮古・釜石間が復旧・移管され、三陸鉄道リアス線として全線開業しました。同じく10月に発生した台風19号の影響による被害も受けましたが、本年3月には再度全線復旧する見込みであり、復興五輪の象徴として聖火の運行も予定されています。

観光の復興については、東北地方において、「東北6県の外国人宿泊者数を2020年に150万人泊（2015年の3倍）にする」という目標を設定しており、最近

の集計結果においても前年比約2割増となるなど、全国と比較しても高い伸び率となっています。東北運輸局といたしましても、東北ならではの地域資源を活用し、地域と連携・協働した滞在プログラムの充実に向けて取り組んでおります。岩手県においては、平泉町・一関市・奥州市での南部鉄器等のものづくり現場の見学・体験や、モーニングタイムエコノミーとしての浄土ヶ浜での日の出太鼓体験等のコンテンツ造成事業を進めているところです。また、広域連携による効果的なプロモーション、受入環境の整備、観光地域づくり法人等の取組体制の強化を推進することにより、一層の訪日外国人旅行者を呼び込めるよう取り組んでまいります。

交通については、地域公共交通の確保に向け、岩手県や盛岡市等で地域公共交通網形成計画が策定されており、また、紫波町でAIを活用したデマンド型乗合バスの実証実験が実施されるなど、地域公共交通の確保に向けて様々な取組が進められています。人口減少・少子高齢化が急速に進む東北地方においては、地域公共交通をとりまく状況は厳しい状況にあるものの、これまでに以上に地域の関係者による「生活の足」



国土交通省東北運輸局長

吉田 耕一郎

を守るための取組を支援していくと同時に、高齢者等の有効な移動手段となることが期待される自動運転技術や、Maas等の新しいモビリティ・システムに係る地域の取組を後押ししてまいります。また、多くの方が円滑に移動できるよう、心のバリアフリーとあわせて様々な環境整備にも取り組んでまいります。

昨年は、ラグビーワールドカップ2019釜石開催があり、岩手県が大きく注目されました。東北全体としても、ナショナルジオグラフィック等複数の海外有力誌において訪れるべき旅行先として掲載され、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会での試合開催や2021年の東北デステイネーションキャンペーンの開催が決定しています。世界的にも東北地方の魅力が注目されている中で、国内外から多くの方に訪れていただき、交流人口を拡大することに、岩手をはじめとする東北地域の更なる経済活性化につながるよう、取り組んでまいります。

東北運輸局といたしましても全力を挙げて取り組んでまいりますので、関係者の皆様におかれましても、引き続き、ご理解・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。